



若葉の青さが目にしみる季節、先日オープンしたばかりの「広域交流センター」をお訪ねしました。美術館を思わせるようなレンガ色の建物に入ると、明るく広々と

広域交流センター

「おじやまします」
ママさんしポーター

した展示交流ホールがひらけ、談話室や資料室と壁がなく続いていくのびのびとした雰囲気を感じられます。製作費六百万を要したという素晴らしい壁画は、窓外の風景とあいまって、豊かな自然と心暖まる人間性を感じさせてくれます。研修室はもちろん、映写室、教材準備室などの内部設備も素晴らしく、大型テレビ、ビデオ、OHP、現像設備など、フルに活用すれば、どんなにか充実した研修ができることでしょう。ホールに続く講堂は、ちょっとした講演会や発表会に適する感じ、軽いスポーツができるのもいいですね。六四畳の日本間、茶室、調理室は女性には興味深いものでしたが、陶芸などのできる「美術工芸室」はユニークな価値あるものです。ただ、せつ

かくの窓が、設計上屋外でしか使えないというのは残念でした。立派な託児室もありましたが、部屋があるだけではどうにもなりませんね。やはり女性の社会参加には少しハンデイが付きそうです。福祉センターと隣接しているせいでもないでしょうが、障害者の設備は整っていて、専用エレベーター、非常用スベリ台など、私は初めて見せていただきました。県内初のこの立派なセンターが、宝のもちぐされにならないよう、団体グループで大いに利用したいものです。



① 田口裕子さん
(鉄砲場)

こんにちは保健婦です



小児マヒ
ポリオ生ワクチン

ポリオ生ワクチンは、生後三カ月から四十八カ月の間に二回飲みます。二回の間隔は、六週間以上離れていれば少々間があいてもかまいませんが、完全に免疫をつくるために必ず二回受けるようにしてください。ワクチンは甘いシロップ液になっており、少量を小さなビペット(またはスプーン)で飲めばよいので、吐くことはありません。

ワクチンを飲むことによって、その中に含まれているウイルスが腸の中で増え、腸に免疫ができるのです。腸内でウイルスが増えると、当然、大便に混ざって排せつされます。ポリオ生ワクチンは、その地域全体を免疫にする集団接種の方法が採られており、わが国ではここ二十年近くポリオの流行はありませんが、安心は禁物。この状態を維持するためにも、二回の接種は忘れずに行きましょう。



がんばれ、働きながら学ぶ若者たち

県北定・通制高校総体

働きながら学ぶ若者の祭典「第二十六回定時制・通信制高校県北総体」が、先月二十三日、大館東高校を主会場に開かれました。午前九時半に始まった開会式では、市長の祝辞などがあった後、同校生徒会長の成田貴さんが歓迎の言葉を述べ、つづいて選手を代表して富樫茂樹さんが力強く選手宣誓をしました。競技は卓球など三種目でしたが、各試合に熱戦を展開。また、選手同志の交流風景も多くみられました。

われらが町内わがグループ

～婦人の家 すみれ会～
No.52

毎週火曜日午後、婦人会館の軽運動室からにぎやかな声が聞こえてきます。卓球を楽しむ「すみれ会」の女性たちです。

昨年9月婦人会館卓球教室を終了した人たちが中心となって同サークルをつくりました。会員は現在11名。練習は午後1時から3時まで。2つの卓球台を使いかわるがわる球を打ち合い、さわやかな汗を流しています。「卓球を始めてからは肩こりや腰痛がなくなったし、大きな声を出すので健康に大変いい。またサークルに入って気の合う友達を見つけたことができた」と会員みんなが口をそろえて言います。練習の最後は気持ちを引き締めての3本勝負。その日のチャンピオンを決めます。練習後のミーティングでは、自家製のケー



キやクッキー、漬け物などを持ちよりお茶を飲みながら世間話に花を咲かせるのも楽しみのひとつになっています。

「汗を流すことで健康に自信が持てるようになったし、若返り法のひとつにもなっています」と最年長で会長を務める小林周さんは話します。

今は初の他流試合として、来年春の市民卓球大会を目指してハリキッテ練習に励んでいます。